

16 エジプトが教えてくれた？我々の「失敗」?!だが、「レジリエンス」がある?!

堂本 彰夫

(1) 二つの「偶然？」が、一つの「大きな奇跡？」を生み出した?!

昨日と一昨日 (10/26~27 日)、奇妙な、そして、かなり面映ゆい？出会い (一部再会!)、しかし、貴重な (大いに刺激を受ける?) 情報入手、否、新たな論考意欲へと誘ってくれる機会があった! それは、何とエジプトの人達との出会い、情報交換のことである (あるプロジェクトの実行者達と、それと協働しようとしている大学の関係者達との会議&セミナー?)! そこでここでは、是非、そのエジプトの人達のプロジェクトがどういふものか?そして、彼らは、何をしようとしているのか?その立ち上げの経緯も含めて、改めて紹介し (以前、少し紹介したことがある!)、それがもつ意味 (示唆?) と、我が国への逆輸入?の可能性について書いておきたいと思う! 実は、これが、今回の新たな論考への誘いということでもある?!

なお、今回来日/来沖していたのは、中心人物アブデルミギードさん (略称ギドさん。奥さんは沖縄の人。) と、仲間のバサントさん、ラニアさん (3人は同僚)、そして、アインシャムス大学のハニーさんとマイさん (教授と准教授?) であった! 一日目は、県の生涯学習推進センターでの、県教委とのディスカッション (生涯学習振興課及び生涯学習推進センターの取組紹介等を交えた情報交換。私を含めた3人がオブザーバー?参加)。二日目は、那覇市繁多川公民館での、「ソフトとしての公民館的場づくりとコーディネーターの意味と展開」というテーマでのズーム交流であった (会場参加とオンライン参加のハイフレックス方式! 何と、エジプトとも繋がった交流でもあった! しかも、当該大学の学部長?の参加もあった! したがって、本気?であることが分かる?)。

ということで、エジプト (の彼ら) のプロジェクトとは、具体的にはどういうものか?簡単に言えば、彼らは、現在、エジプトで2番目の規模をもつ「国立アインシャムス大学」の教育学部において、我が国で言うところの「社会教育主事」の資格付与 (「社会教育コーディネーター?」の養成) を計画しており、日本における経験とアイデアを求めべく来日/来沖しているということであった (この企画自体は、かのJICAの支援事業ともなっている?)! ちなみに、それは、これから述べるように、私にとっては、甚だ複雑な思いを抱かせるものではあるが (それが、ある意味、冒頭の「面映ゆい?」ということである!)??

まあ、それはともかく、彼らの来日/来沖の目的は、上記のように、彼らが目指すべき、その「社会教育コーディネーター?」の活躍の場所としての「公民館」 (エジプトでも立ち上がっている!)、そして、それが位置づけられている「社会教育 (行政)」の実情を視察することであったということであるが、実は、今回の動きと、そのきっかけ、そして、その来日/来沖のお手伝いをしているのが、沖縄県那覇市の特定非営利活動法人 (NPO法人) 「1万人井戸端会議」 (那覇市繁多川公民館指定管理受託者) なのである! 以前にも紹介したように、彼らは、偶然にも出会った、エジプト人アブデルミギードさん達と一緒に、「エジプトにおける教育イノベーション創出事業」を始めようとしているわけである。

思うに、私が、かつて (10年前?)、当時留学生であったギドさんを、ゼミ活動の一環で同公民館に連れていったこと、そして、そこで、現館長のMさん達と意気投合?し、その後の交流を行ったことが、遥か異国のエジプトに、「日本の公民館」のようなものを創ろうというビッグプロジェクトにまで発展していったということである! それは、まさに二つの「偶然？」が、一つの「大きな奇跡？」を生み出したということでもある?! ということである?!

(2) 改めて、ここでは、何が重要か? 「失敗?」「レジリエンス?」、それは、どういうことなのか?!

さて、そこでであるが、これらの話の文脈において、改めて、我々の「失敗?」とは何か?そして、ここでの「レジリエンス?」とは何か?そのことを、説明しておかなければならない! それは、単純に言うと、我が国の国立大学 (厳密に言うと、そこにおける教育学部ないしは、それに相当する学部ということ!) における「社会教育主事養成 (資格付与)」の失敗?ということである! ただし、現在においても、新たなカリキュラムの下でそれを実施している大学もあるので (いわゆる「学芸系教育大学」?もちろん、公立、私立大学は、この限りではない!)、必ずしも失敗ということは出来ないのかもしれない?!

であれば、この場合は、私が勤務していた琉球大学教育学部のことを念頭に置いて話を進めていくことになるが、それは、折角立ち上げて (現有スタッフ等をやり繰りして)、それなりの成果を挙げていたと思われる、いわゆる「生涯教育課程」等、教員養成課程以外の「課程」「学科」 (当該大学で、それぞれ創意工夫をして立ち上げていた!) が廃止されたということであり、そこを中心にして行ってきた「社会教育主事の資格付与 (養成)」を止めた (止めざるを得なかった?) ということである!

ちなみに、その「生涯教育課程」等 (それらは、世間?からは「ゼロ免課程」と揶揄されていた?) は、決し

て教員養成を行わないというものではなく、従来の、タテ型の？教科毎の教員養成ではなく、新たな課題に対応できる教員の養成、あるいは「社会教育主事」等の、広い意味での教育関係人材の養成を意図するものであったが（教員免許は、表向きは卒業要件ではなかったが、その取得はもちろん、他の教育関係人材の資格取得も組み込まれていた）、私自身は、「ゼロ免課程」と呼ばれることに憤慨していた！）、何故か？余分なもの、あるいは余剰？教員の隠れ蓑みたいなものと断罪され、ある時期一斉に消されてしまったということである（国立大学の「ミッションの再定義」という名の下に！）！

しかるに、琉球大学のような、地方の国立大学の多くは、このような状況になってしまったわけであるが、さらに運悪く、当地においては、琉球大学だけが社会教育主事資格付与の任を負っていたので、これを期に、沖縄県全体で、大学での当該資格の取得は出来なくなってしまったのである！しかも、それが、直接の担当者であった私がいなくなるということが原因？であったわけであるので（退職、しかも早期！）、その「失敗？」の無念さは、二重の意味で甚大なものであったということでもある？！

それが、ひょんなことから、エジプト（人）が、日本の社会教育、とりわけ公民館の存在意義と可能性に感じ入り、自国に、そのシステムを構築したいということで動いているのである！私にとっては、何と云う皮肉？なのかとも思うが、そのノウハウや経験を教えて欲しいということで、出会いの生みの親？でもある私が、今回の集まりに呼ばれたということである！しかし、そこには、かの「レジリエンス？」が期待される？！否、そうでなければいけない？！そうも思えるからこそ、今回、協力を惜しまなかったのである？！

(3) まだまだ？諦めてはいけない！そこには、「レジリエンス resilience」(復元力？)がある？！

では、改めて、その「レジリエンス」であるが、その本来の意味は、「弾力」や「弾性」といった物理学の用語である！だが、それによって「元通りになる(する)」ということで、一度は失敗したけれども、その大切さに気づき、それを元に戻そうとする、社会の意識や力ということであれば、「復元力」ということにもなり、何か、そこから新たな可能性が期待できるかもしれない？！つまり、今回の、エジプト（の人達）からの逆照射？によって、私達が無くした？ものを、今からでも遅くない？取り戻そうということである？！

翻って、改めて、教育には、「学校教育」と「社会教育」の両方が必要であり、その双方の力と成果を融合し合うことが求められる！まさに、「ひとづくり」と「まちづくり」の双方の要素が必要だということであるが、それは、今回の世話役「一万人井戸端会議」の紹介文にも、端的に示されている！すなわち、彼らは、「社会教育の視点で1万人規模の地域と学校でまちづくり」を行うことを目的にしており、「地域文化と歴史を掘り起し誇りと生きがいを高めながら、世代を結びつけることを得意としています。その地域力で1万人規模の生活圏で教育や福祉の課題を解決するしくみづくりに取り組んでいる」ということである。

とは言え、そのためには、それを実現させる人材、とりわけ「コーディネーター」の養成と、彼らの働く場所（給与／身分の保障を含む）が構築されなければいけない（我が国の、この場合は国立大学の失敗は、詰まるどころそこに起因する！今回、最も衝撃的な情報となったが、エジプトでは、いわゆるNGOが各地に配置され、そこには多くの寄付金が集まるという！そこに、その「コーディネーター」の配属を考えているということである！）！かなり壮大なことを述べるようであるが、現在、改めて「教育全体」のあり方が模索されている（再構築されようとしている？）が、ここでのエジプトの思いと動きは、それに対する、大いなる示唆となるのではないか（ただし、このことは、潜在的には、古今東西、絶え間なく構想されてきたとは言えるであろうが）？！

このように、今回のギドさん達、とりわけ国立アインシャムス大学の関係者のみなさんの思いと企図は、私にとっては、誠に複雑な思いをもたせるものではあるが、やはり私の思いは間違っていなかった！冷静に考えれば、そういうことは、どこの国においても、ある意味当然のこと（自然の摂理？）と思う次第なのでもある！目下、我が国においては、教員の働き方改革等、多大な課題と、そのための予算措置（捻出？）の必要性が叫ばれているが、エジプトの方は、NGOや、それを支える社会の力があるだけに（ムスリムの教えのようだが、国民の多くが、多大な寄付金を寄せるしくみがあるということ！）、正直かなり癩でもあるが？、大いなる期待がもてそうなものでもある？！我が国においても、結局は、予算（カネ）、そして多くの関係人材が、それで飯が食える（生涯の仕事としてやれる）？！そこが、重要であったということである？！

最後に、思い出すのは、当時教育学部長として、全国の教員養成系の大学・学部の長の集まりで（確かその会議は、「文科省」と共催であった？！しかも、それは、例の「ミッションの再定義」が進行していた最中でもあった！）、私が、意を決して、生涯教育課程の意義、新たな教育基本法体制下での教育の在り方、したがって、教育学部のあり方、方向性について話をさせてもらったことである！（極？）一部の人達からは、後から賛同・称賛の声も頂いたが、何せ、そこには、最早既定路線が敷かれていたらしく（財務省の意向？）、私の、その歴史的演説？は、徒勞（あだ花？）に終わった（今となっては、懐かしい武勇伝とは言える？）？！果たして、それはどうなのか？そこに、かの「レジリエンス」が働き始めていると思いたいのであるが…（つづく）